

# 平成27年度 近畿ブロッククラブネットワークアクション2015

## 開催報告

日時：[第1日目] 平成27年10月31日(土) 11:00~16:30

[第2日目] 平成27年11月1日(日) 9:00~12:00

会場：兵庫県民会館 9階 けんみんホール他

内容：[1日目]

①講演 「地域における総合型地域スポーツクラブの必要性」

②クラブ事例発表

- ・観光協会、まちづくり協議会との連携事例
- ・スポーツ少年団等と協働で活動を進めている事例
- ・地元大学との連携により、指導者の確保に努めている事例
- ・近隣の総合型地域スポーツクラブ等との連携事例
- ・子育て支援事業を展開している事例
- ・障害者スポーツの取り組みを行っている事例

③クラブ経営シミュレーション

[2日目]

①分科会

- A. 自立するために必要なクラブ運営について
- B. 発展的な事業の展開をめざすクラブ運営について
- C. 他団体との連携、協働によるクラブ運営について

②講演「関西ワールドマスターズゲームズ2021による地域の活性化と総合型地域スポーツクラブの役割」

### 【概要】

総合型地域スポーツクラブの「可能性」をキーワードとして、二日間のプログラムを実施しました。「可能性」は、①物事が実現する見込み、②潜在的な発展性の意味を持っています。クラブの持つ潜在的な発展性を創造し、具体的に実現するための方法を考えました。

1日目は、地域におけるクラブの必要性を再確認した上で、6つのクラブの事例発表を通じてクラブの可能性を探りました。また、クラブの可能性を追求し、具体的に実現するための展開として、クラブ運営に必要な財源のシミュレーションを行いました。自クラブの収支決算書等を基にしたシミュレートや、一般的なクラブ運営にかかる経費を算出した上で、実現可能性を高めるための方策を考えました。

2日目は、自立・発展・連携をキーワードとした3つの分科会において、クラブの可能性を議論しました。また、2021年に関西で開催が決定している「関西ワールドマスターズゲームズ2021」に向けて、クラブでできること、クラブの役割等を学びました。

[1日目]

【講演】「地域における総合型地域スポーツクラブの必要性」講師：炭谷将史氏（聖泉大学准教授）

総合型地域スポーツクラブの必要性をご講演いただきました。総合型クラブは、スポーツ種目を提供するだけでなく、地域の活性化を念頭に置いた団体であると理解し、人々の生活を豊かにする手段として、クラブライフを提供していくことが重要であると解説されました。



### 【クラブ事例発表】

近畿ブロック内のクラブにおいて、特色のある事例や取り組み等を行っているクラブよりそれぞれ事例を発表していただきました。

#### ◆観光協会、まちづくり協議会との連携事例：村田 正夫氏（みやまスポーツクラブ）

クラブが作成したふるさと美山らんらん MAP では20kmのランニングコース上にある観光名所を紹介する等、スポーツと観光、まちづくりといった視点からクラブ運営を進めています。

#### ◆スポーツ少年団等と協働で活動を進めている事：深澤 豪氏（NPO 法人川西スポーツクラブ）

スポーツ少年団と総合型クラブの連携を深めることで、指導者・役員等の人材が多様化し、お互いの活動が充実しています。総合型クラブとスポーツ少年団はWIN×WINの関係づくりができる組織です。

#### ◆地元大学との連携により、指導者の確保に努めている事例：岡野 晴行氏（福崎町スポーツクラブ連合）

大学生がクラブで実習指導を行うことで、大学の単位認定となる制度づくりを行い、大学生を活用したスポーツ指導を展開しています。学生などの若い人材が、クラブに関わり続けてもらえるような取り組みを進めています。

#### ◆近隣の総合型地域スポーツクラブ等との連携事例：南 由佳氏（スプラウトスポーツクラブ和歌山）

近隣のクラブとの連携により、一つのクラブでは開催が難しい事業を協働によって実現しています。クラブ間の連携により、人材面や活動場所、対象者など、スケールメリットを活かした事業展開を行うことができます。

#### ◆子育て支援事業を展開している事例：岩田 真砂美氏（NPO 法人長野総合スポーツクラブ）

幼児から運動を行うことの重要性や、お母さん方がコミュニケーションをとる場所を提供する必要があります。専門家ではなく、子育て経験者として共感できる関係等をキーワードにクラブだからできること、子供の育ち、親の育ちをクラブで見守っています。

#### ◆障害者スポーツの取り組みを行っている事例：外田 順一氏（NPO 法人 YASU ほほえみクラブ）

スポーツを通じて全ての人々が幸福で豊かな生活を営む事ができる社会をめざして、障がい者を対象として事業を重点的に進めています。障がい者の生涯スポーツ推進として、目標になる大会の開催や身体を動かす楽しみや習慣を付けてもらえるような活動を行っています。

## 【クラブ経営シミュレーション】

一般的にクラブの経営に必要とされる「経費のシミュレーション」を行うグループと、自クラブの収支決算書等を基に、「クラブ経営を見直すグループ」の2つに分かれて行いました。一般



的なクラブ経費のシミュレートは、各事業（教室、イベント）にかかる諸経費を示した一覧から事業を選択し、収支バランスを整えていくという内容です。事業の収支バランスだけでなく、クラブ管理費を念頭においた会費設定も必要であり、基本的なクラブ経営の在り方を学びました。

## [2日目]

### 【分科会】

クラブ育成段階を自立・発展・連携の3つに分類し、「自立をめざしたクラブ運営」、「発展的な事業の展開をめざすクラブ運営」、「他団体との連携・協働によるクラブ運営」のブースごとに講義及びディスカッションを行いました。クラブの自立においては、会議において多くの意見が出ることが重要で、その手法としてホワイトボードミーティングが紹介されました。クラブの発展においては、発展的な事業を、将来発展する状態、傾向、性質のある事業と捉え、スポーツに限定せずに事業を考えていくことが説明されました。他団体との連携においては、1つのクラブだけではできないことが複数クラブの集合体であれば実現可能となることを、まちづくりに置き換えてわかりやすく説明されました。



## 【講演】 関西ワールドマスターズゲームズ2021による地域の活性化と総合型地域スポーツクラブの役割

講師：東 直也氏((一財)関西ワールドマスターズゲームズ2015組織委員会)



「一人ひとりの挑戦と多様な交流の和をつなげる」の基本理念にはじまり、大会の概要や意義、特徴をご説明いただきました。また、総合型クラブの参画方法として、個人・チームとしての世界大会に出場するという目標をもつということ、ボランティアとして協力すること等が示され、イベントへの参画が、クラブの存在を地域にPRする良い機会となるとお話がありました。

## 【まとめ】

府県を越えたネットワークづくりの意義を感じ、「近畿は一つ」を合言葉にブロックネットワークアクションを開催してきました。今年度、初めて兵庫県で開催ができ、名実ともに一つにまとまっていくように思います。「クラブの可能性」をとことん考え抜いた今年度の取組は、可能性を広げ、発展していく上で、十分な成果があったと確信しています。次年度は滋賀県での開催となります。府県を越えた連携・協力により、さらなるネットワークの構築につなげていけるよう協力していく所存です。

近畿ブロックネットワークアクション2015実行委員会  
委員長 大原 克彦